

WHOは 子宮頸がんのない世界を目指しています (世界保健機関)

婦人科部長 衛藤 貴子



子宮頸がんは、2020年には全世界で1年間に60.4万人が発症し、34.2万人が命を落としたと推定されています(WHO)。

罹患率は低～中所得国で高く、高所得国で低いのですが、日本は罹患率、死亡率ともに増加しています。

しかし、子宮頸がんは予防する方法があり、対策をとれば、命だけでなく、女性の生活を守ることができます。

ワクチンや検診にアクセスしにくい国・地域であっても等しく女性を子宮頸がんから守るために、2018年にWHOは「子宮頸がんの排除(cervical cancer elimination)」を目標とする声明をだしました。



子宮頸がん排除のための構造

(排除とは、すべての国で子宮頸がんの罹患率が4 / 10万人年より少なくなること)



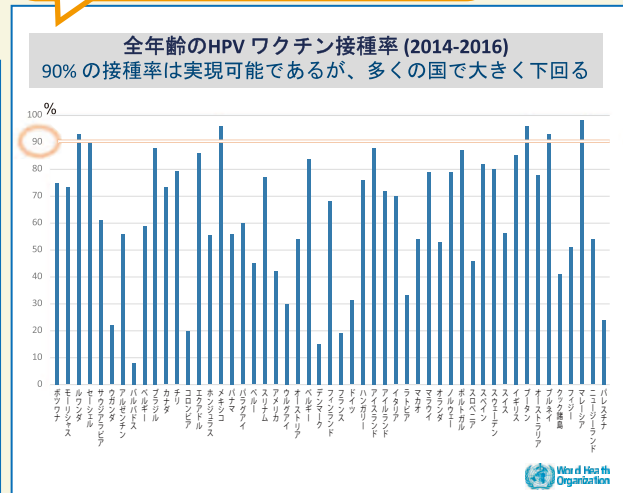
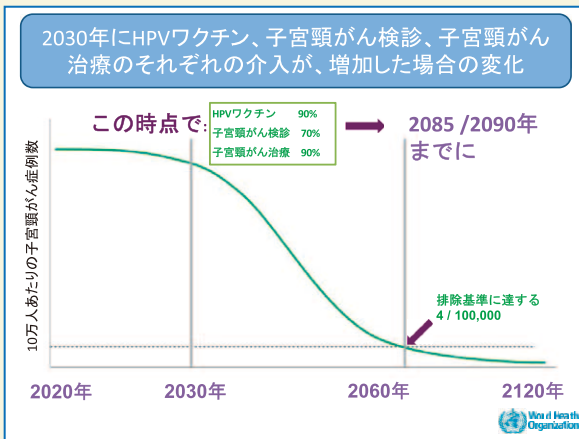
具体的な目標は、2030年までに以下の3つを達成することです。

1. HPV ワクチン接種：90% 少女が15歳までにHPVワクチン接種すること
2. 子宮頸がん検診受診：70% 女性が35歳と45歳で確実性の高い子宮頸がん検診を受けること
3. 病変に対する治療：90% 病変を指摘された女性が治療とケアを受けること



「90%以上が治療を受けられるようにしましょう」ということを目標に掲げなければいけない国が数多く存在するんですね。

日本のこの時点の検診受診率は約40%、HPVワクチン接種率は1%に満たない！
接種勧奨再開後の2022年4～7月でも1回目接種したのは16.6%との報告も、まだまだ出足は遅いようです



日本産科婦人科学会 Web サイト 世界的な公衆衛生上の問題「子宮頸がんの排除」に向けた WHO スライド 日本語翻訳版 より

90・70・90 で世界から子宮頸がんをなくしましょう

日本では

- * 子宮頸がん検診は 20歳から 2年に1回
- * HPV ワクチン定期接種は 小6～高1相当女子 (1997～2005年度生女子へのキャッチアップ接種は2025年3月まで)



HPV ワクチン接種は
性交渉開始前に



対象の方に、ご自身で十分に考えて、安心してワクチン接種をしていただけるよう、当院では有効性、副反応のリスクなどについての説明に努めています。

お問い合わせは婦人科外来まで (病院代表) 092-541-4936

